

フクイマメシジミ

Pisidium hukuiense (Mori)
ザルガイ目・マメシジミ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生息分布が、標高 1,000m級の亜高山帯で局所的であり、植生遷移で生息条件が悪化しており、個体数も減少している。

種の特徴

殻高 3 mm、殻長 4 mm、殻幅 2 mm内外の卵三角形の二枚貝。殻は黄白色から黄褐色の薄質半透明。前背縁は後背縁より長い。生息泥中では白さが目立つ。

分布

マメシジミ類は北海道、本州の亜高山帯に分布する。県内では部子山の千本杉の東側と谷筋、冠山登山道の中腹、大野市夫婦池の沼に分布している。

生息を脅かす要因

分布域が 5 か所とかなり限定されており、登山道や公園の整備による生息地の乾燥化が本種の生息を脅かす要因であり、マニアの採集圧も大きい。

参考文献 川村 (1973)、福井県自然環境保全調査研究会編 (1998)、福井県編 (2002)、波部 (1977)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
								○	○						○	○	

カワグチツボ

Fluviocingula elegantula (A.Adams)
新生腹足目・カワグチツボ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

石積み護岸されているが、間にアシ原が残るような場所に生息する。生息地は局所的で、個体数も少ない。

種の特徴

殻高約 8 mm、殻径約 2.3 mm、巻数 5 回で薄質の長卵形。螺層は膨らみ縫合は浅い。螺肋は弱く密にあり、殻色は淡黄褐色から黒褐色までである。ワカウラツボと異なり蓋の内側に肋状付属物がない。

分布

北海道から九州までの内湾や河口の、潮溜まりの緑藻に付着する。県内では久々子湖のアシ原にのみ生息している。

生息を脅かす要因

高塩性の河口付近や湖沼に生息し分布が局限されており、河川や海岸の護岸工事による生息環境の改変が本種の生存を脅かす要因である。現在、確認されている場所も、住民・市民が景観上気になるとヨシ原が駆除され消滅のおそれがある。

参考文献 川村 (1973)、福井県自然環境保全調査研究会編 (1998)、福井県編 (2002)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○			○							○						

イシマキガイ

Clithon retropictus (Martens)
アマオブネガイ目・アマオブネ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

幼体や成体は河川の中流域から河口域に生息するが、生息環境悪化により生息域が縮小し、個体数が少なくなっている。

種の特徴

殻径 20 ~ 25 mmのやや前後に長い半球状で、殻口は殻径の 2/5 を占め、内唇部を含めると 2/3 程にもなる。殻表は平滑で成長脈のみ、黒褐色で小さい三角斑がある。蓋は螺溝があり、肌色で多少灰黒色の雲状斑を有し、外縁は赤褐色の革質に縁取られる。

分布

本州関東以南のほぼ全域に分布する。県内では南川水系や北川水系、北潟湖、久々子湖等に生息している。

生息を脅かす要因

河川改修や護岸工事等による生息地の改変と上流からの工事による泥の流入や生活排水による水質汚染が原因となる。

参考文献 増田・内山 (2004)、吉良 (1981)、福井県自然環境保全調査研究会編 (1998)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○		○	○						○		○				○